

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立ゆいの杜小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年 国語 129人 算数 129人 理科 129人

第5学年 国語 112人 算数 112人 理科 112人

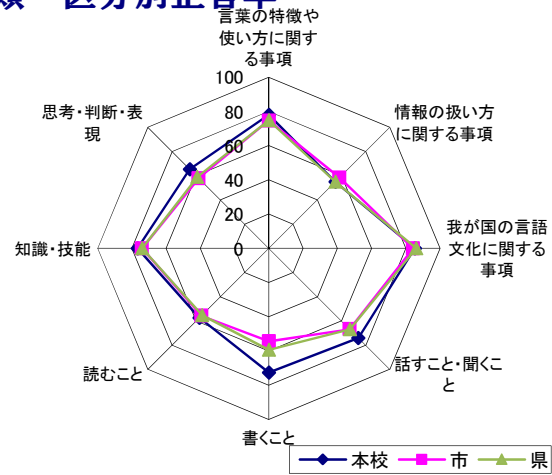
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	78.1	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	55.0	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	85.3	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	74.0	66.7	66.9
	書くこと	72.5	54.3	59.3
	読むこと	57.4	55.6	55.2
観点	知識・技能	76.7	74.1	74.0
	思考・判断・表現	65.3	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

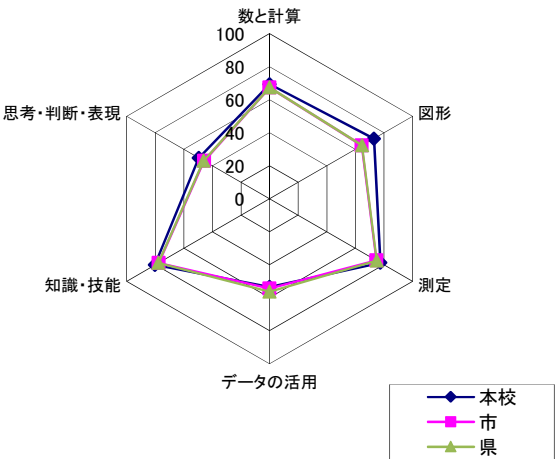
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○漢字を正しく読んだり書いたりする問題では、ほとんどの問題で県の正答率を上回った。 ●主語と述語を組み合わせる問題では、県の正答率では5ポイントほど下回った。	・今後も漢字50問テストやミニテストを定期的 to 実施し、繰り返し練習することで知識の定着を図る。 ・主語が何かを意識して文を読んだり書いたりする活動を取り入れ、文の組み立てについてさらに理解を深めていく。
情報の扱い方にに関する事項	●国語辞典の使い方についての問題では、県の正答率と同等であったが、市の正答率は3.4ポイント下回った。	・授業の中で辞書引き学習を積極的に取り入れることで、国語辞典の使い方を定着させる。
我が国の言語文化に関する事項	○漢字のへんやつくりなどの構成についての問題の正答率は85.3ポイントであったが、県の正答率は0.8ポイント下回った。	・漢字の練習をする際に、へんやつくりなどの部首についてくり返し確認し、知識を定着させていく。
話すこと・聞くこと	○相手に伝わるように自分の考えを話す問題では、県の正答率を8.5ポイント上回った。 ●司会者の発言に適する内容を考える問題では、県の正答率を3.7ポイント上回ったが、正答率は33.3ポイントであり、無回答率も19.4ポイントであった。	・朝のスピーチなどで理由を挙げながら自分の考えを伝える活動を今後も取り入れていく。 ・相手の伝えたい内容や、話の中心を捉えて聞く練習を適宜行い、聞く力を高めていく。
書くこと	○指定された長さで文章を書く問題では、県の正答率を17.9ポイント上回った。	・今後も日記学習や作文学習などを通して文章を書く力を定着させていく。
読むこと	○叙述を基に文章の内容を捉える問題では、県の正答率を5.7ポイント上回った。 ●文章を要約する問題では県の正答率を5ポイント下回った。	・読書活動などを継続的にを行い、文章を読むことに慣れさせていく。 ・授業の中で教科書に書いてあることに立ち戻る学習活動を取り入れていく。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.4	67.3	67.4
	図形	72.9	64.5	64.7
	測定	77.5	74.7	74.9
	データの活用	53.5	54.4	56.4
観点	知識・技能	80.2	77.6	77.8
	思考・判断・表現	49.5	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

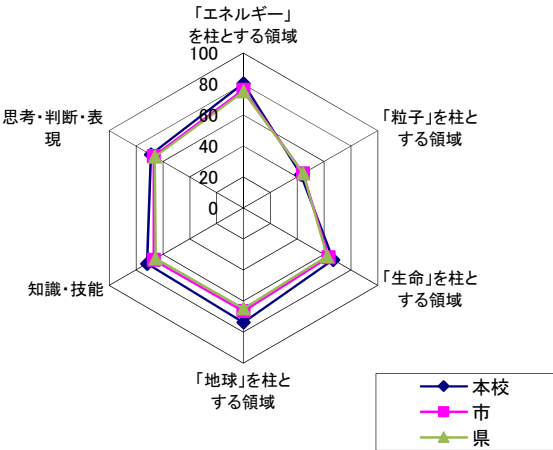
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○ほとんどの問題で県の正答率を上回っている。特に除法の立式をする問題では、77.5%で県の正答率を11.3ポイント上回った。 ●小数の減法を整数の減法に直して処理する方法を説明する問題では、正答率が8.5%で県の正答率を7.5ポイント下回った。	・小数と整数の関係を捉えることができるように、数の相対的な大きさを使って問題を解いたり説明したりする活動を取り入れる。
図形	○全ての問題で県の正答率を上回っている。特に円の中心とコンパスの使い方について正しいものを選ぶ問題では、正答率が75.2%で、県の正答率を5.2ポイント上回った。 ○円の性質を考えコンパスを使って正三角形が作図できることを説明する問題では、47.3%で県の正答率を13.9ポイント上回った。	・球の半径について正しいものを選ぶ問題では、67.4%と県の正答率を2.7%上回っているが、約3割が不正解であるため、今後も継続して類似問題に取り組み、理解力向上を図る。
測定	○全ての問題で県の正答率を上回っている。特に身近なものの重さの単位について正しくないものを選ぶ問題では、正答率が86.1%で県の正答率を5.9ポイント上回った。	・はかりのめもりを読み取り重さを答える問題では、51.2%と県の正答率を0.1%上回っているが、約半分が不正解であるため、はかりのめもりを正しく読み取ることができるよう指導していく。
データの活用	○棒グラフを読み取り2番目に多かったスポーツを答える問題では、正答率が90.7%と県の正答率を1.5ポイント上回った。 ●2つの棒グラフで1めもりの数が異なることに注意しながら棒グラフを読み取り正しいものを選ぶ問題では、正答率が16.3%と県の正答率を7.3ポイント下回った。	・めもりに気を付けて正しくグラフを読み取ることができるように指導する。 ・複数のグラフを比較・検討する力を高めるために、日常生活の中でグラフを比較し事実を捉える機会を取り入れる。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	80.3	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	42.9	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	66.8	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	73.8	66.6	64.9
観点	知識・技能	71.8	66.8	65.4
	思考・判断・表現	68.9	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○「エネルギー」を柱とする領域において、どの問題も県平均と同等か上回っている。 ○「風とゴムのはたらき」の「車が動いた距離から送風機の風の強さを推測できる。」の問題において、県平均より8.7ポイント上回っている。 ●「光のせいしつ」の「鏡ではね返した日光を重ねたときのあたたかさを調べる実験の結果として適切な記録を選ぶ。」問題において、県平均を5.3ポイント下回っている。	・基礎・基本的な知識・技能は身につけているが、活用問題になると正答率が下がることから、学習内容を活用して考える場面を設けて、実験をしたり、課題に取り組ませたりしていきたい。
「粒子」を柱とする領域	○「物の重さ」の「ものの重さから、同じ種類の木でできている積み木を推測できる。」の問題において、県平均を2.9ポイント上回っている。 ●「ものの形を変えても重さは変わらないことを理解できる。」の問題において、正答率が36.4ポイントと低く、県平均を9.3ポイント下回っている。 ●「姿勢を変えて測った体重が変化するかを、実験の結果をもとに記述する。」問題では、県平均より1.8ポイント上回っているが、正答率が11.6ポイントと低い。	・資料や問題文の読み取りが不十分なので、引き続き指導が必要である。 ・基礎・基本の定着を高めるため、引き続き繰り返し指導していきたい。 ・活用問題や、理由を記述する問題の正答率が低いため、活用問題や、理由を記述する問題になどに取り組む時間を確保していきたい。
「生命」を柱とする領域	○「チョウを育てよう」の「アゲハが卵を産み付ける場所を考える。」問題では、県平均より22.8ポイント上回っている。 ●虫眼鏡の使い方を身につけているかどうかを答える問題では、正答率が18.6%と低く、県平均を4ポイント下回っている。	・身近な自然についての理解が高いので、今後も自然に親しむ機会を設けていきたい。 ・虫眼鏡の使い方についての理解が不十分なので、用具を正しく操作できるよう、観察・実験の機会を増やし、理解が深まるよう支援していきたい。
「地球」を柱とする領域	○「太陽と地面のようす」の「太陽の位置の変化を方位で考える。」問題では、正答率が68.2ポイントで、県平均を24.3ポイント上回っている。 ○どの問題も基礎・基本的な内容については、県平均と同等または上回っている。 ●「日なたと日かげの地面の温度の変化を考える」問題では、県平均を2.7ポイント下回っている。	・生活場面と関連している問題が多いので、今後も生活場面との関連を想起することができる機会を設けていきたい。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、朝食を食べている」の肯定的割合が99.2%となっている。また、「毎日同じくらいの時刻に寝ている」「早寝、早起きを心掛けている」の肯定的割合が、それぞれ県の平均を上回っており、基本的な生活習慣が身についていることが伺える。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」「自分がもっている能力を十分に発揮したい」「将来の夢や目標をもっている」の肯定的割合が全て県の平均を上回っており、児童が自分自身のことを認め、将来に向けて明るい展望をもっていることが伺える。

○「家の人と学校での出来事について話をしている」「家の人と将来のことについて話すことがある」「家の人は、あなたがほめてもらいたことをほめてくれる」の肯定的割合が全て県の平均を上回っており、児童と家庭との良好な関係が伺える。

○「次の教科の問題を解く時間は十分でしたか。」「次の教科の授業の内容はよく分かりますか。」の肯定的割合は、全ての教科において県の平均を上回っており、児童が学習面において理解を深めていることが分かる。

●「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとする」の肯定的割合が、それぞれ県の平均を下回っており、問題解決に対する児童の意欲が低いことが伺える。授業で発展的問題を取り入れることで、児童の挑戦心や探求心を喚起したい。

●「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的割合が、それぞれ県の平均を下回っている。児童は宿題以外の復習や課題を見つけて取り組むことが苦手と思われる。ある程度の学習の手引きを示すことによって、自主的に学習に取り組めるよう、支援していきたい。

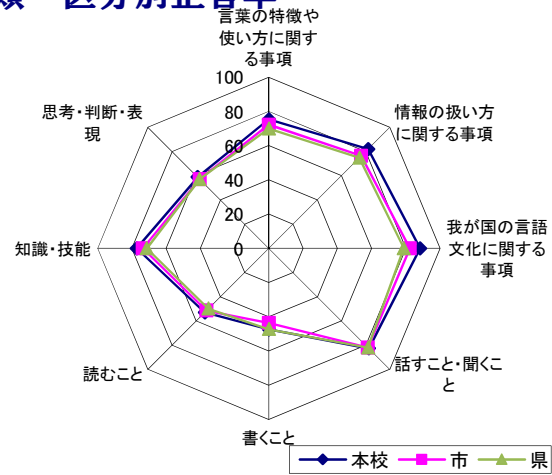
●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の肯定的割合が、県の平均を下回っている。今後は、様々な場面で話し合い活動を取り入れることで、児童の習熟を深め、意欲を高めていきたい。

●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定的割合が県より下回っている。日ごろから児童との関係性を大切にし、質問しやすい学級環境を構築する。また、疑問点をそのままにせず解決しようとする雰囲気づくりに努める。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.4	72.3	70.0
	情報の扱い方に関する事項	82.1	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	88.4	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	82.6	81.9	82.0
	書くこと	47.3	43.5	47.2
	読むこと	52.9	51.4	49.8
観点	知識・技能	77.2	73.6	71.3
	思考・判断・表現	58.9	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

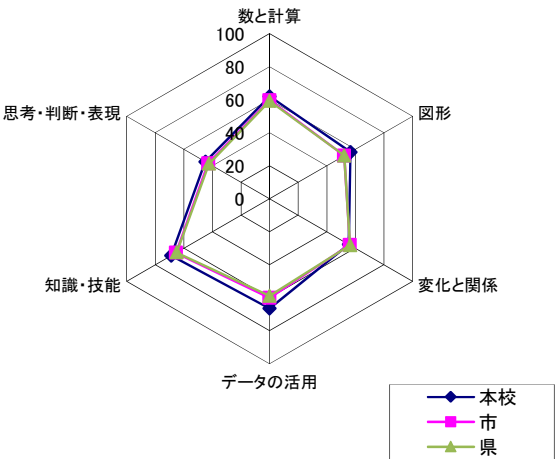
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字の読みに関する全ての問題では、校内正答率が93%以上と比較的に高い傾向にある。 ●連体修飾語についての理解に関する問題では、市の正答率を0.5ポイント下回っている。 ●漢字の書きに関する問題では、県や市の正答率を上回っているが、正答率が51%のものもあるなど、読みに比べて低い傾向にある。	・文章を構成している主語、述語や修飾語など文法に関する問題を授業で積極的に取り入れたり、作文を適宜の課題とすることで、多様な表現に触れさせたりする。
情報の扱い方に関する事項	○漢字辞典の使い方を理解し、適切な調べ方を選ぶ問題では、県の正答率を7.2ポイント、市の正答率を5.7ポイント上回っている。	・新出漢字や読みかえの漢字を学習する際に、漢字辞典を繰り返し活用させていきたい。
我が国の言語文化に関する事項	○ことわざの意味を理解して正しく使う問題では、県の正答率を9.5ポイント、市の正答率を6.0ポイント上回っている。	・ことわざや慣用句、故事成語について意味を理解するだけでなく、日常の出来事とつなげたり、引用して書いたりする経験を積み重ねていく。
話すこと・聞くこと	○話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、県の正答率を1.5ポイント、市の正答率を1.1ポイント上回っている。 ●話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える問題では、県の正答率を2.6ポイント、市の正答率を1.1ポイント下回っている。	・意見を述べる活動で、相手に分かりやすくために話の構成を考えさせるとともに、その効果を振り返る時間を確保する。
書くこと	●アンケート結果から自分の考えを書く問題では、県や市の正答率を上回ってはいるが、本校17.9%の児童が無解答となってしまう。	・問題に取り組む時間が足りない児童が少なくないので、日頃から授業での課題に制限時間を設定し、時間への意識を高める。 ・段落の役割や文の構成、要旨に注目し、文を書くことができるように、適宜ポイントをまとめる場面を設けていく。
読むこと	○物語文を読み取る問題では、ほとんどの問題において、県や市の正答率を上回っている。 ●説明文を読み取る問題では、叙述を基に文章の内容を捉える問題で、県や市の正答率を下回った。	・物語文や説明文の読み取りにおいては、まず感想を持たせ、考えたことなどを文中の言葉を根拠として、意見を交換し合う経験を積み重ねていく。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.0	59.7	59.2
	図形	56.6	52.1	52.1
	変化と関係	55.4	56.1	56.3
	データの活用	66.5	60.1	58.9
観点	知識・技能	68.8	65.5	65.1
	思考・判断・表現	44.9	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

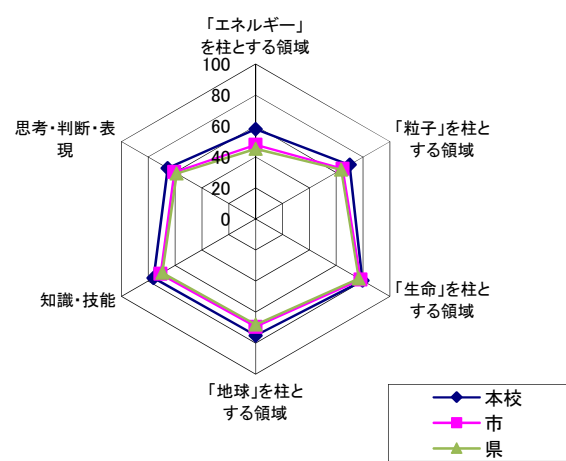
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は県の平均を2.8ポイント上回った。 ○小数第一位の数÷整数の計算問題は県の平均を13.9ポイント上回り、数直線をもとに、異分母分数の大小関係について問う問題は県の平均を8.8ポイント上回っている。 ●問題文を読み、目的に応じて正しく見積もっているものを選ぶ問題については、正答率が約20%と課題が見られる。	・計算問題はよくできていたが、問題文から得た情報を生かす問題ができない児童が多いため、日頃より一問一問問題をよく読み取りながら練習に取り組むようにしていく。 ・普段の学習に文章問題を解く機会を増やし、読解力の向上を図る。
図形	平均正答率は県の平均を4.5ポイント上回った。 ○ひし形の作図をする問題は、県の平均より10.1ポイント上回っている。面積の問題に対しては、全体としてよくできていた。 ●180度より大きい角の大きさを求める問題は、県の平均より4.7ポイント下回っていた。	・普段の学習に文章問題を解く機会を増やし、読解力の向上を図る。 ・普段の学校生活において、算数的思考を促すために算数的活動を実践する。
変化と関係	平均正答率は県の平均を0.9ポイント下回った。 ○数量の関係について、正しく表された図を選ぶ問題は、ほぼ県の平均や市の平均と同じで正答率は約70%であった。 ●伴って変わる2つの数量関係について、表を縦に見て分かることを説明する問題では、県の平均より2.7ポイント下回っている。	・伴って変わる2つの数量の関係を説明する問題の正答率が22.3%と約8割の児童が正答できていないことから、身の回りの伴って変わる2つの数量の關係に着目し、一方の変化に対応してもう一方がどのように変化するかを調べる活動などをとおして、変化や対応の特徴を見出し、関数的な見方や考え方ができるようにしていく。
データの活用	平均正答率は県の平均を7.6ポイント上回った。 ○データーを表に整理して、条件に当てはまる人数を答える問題では、県の平均を13.4ポイント上回っている。データの活用に関する問題は、全体としてよくできていた。	・今後も表やグラフのデータを正しく読み、分析的に扱う授業を行い、自分の考えや意見を記述する学習を増やす。 ・普段の学習に文章問題を解く機会を増やし、読解力の向上を図る。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	58.0	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	70.0	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	79.5	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	75.1	69.5	68.1
観点	知識・技能	76.0	70.8	69.5
	思考・判断・表現	65.6	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を10ポイント以上、上回っている。 ○乾電池のつなぎ方と名称についての理解は十分である。 ●検流計の針の振れる向きが電流の向き、針の振れ具合が電流の大きさを表していることの理解が不十分である。	・検流計などの実験器具をグループだけではなく、個人で使う機会を増やす。また、器具の使い方について、繰り返し復習する。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より高い。 ○ボールに空気を入れるとはずむ理由を説明することができる。 ●予想が正しかった場合に得られる実験の結果を構想することに課題が見られる。	・実験の予想、計画を立てる際に予想が正しかった場合にどんな結果になるか見通しを立てる時間を設ける。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○関節のはたらきについてよく理解している。 ●サクラのようすがどのように変化するか理解が不十分である。	・季節ごとのサクラなどの植物の観察を確実にし、年度末に1年間の変化を復習する。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より高い。 ○星の並び方や動き方、明るさや色についてはよく理解している。 ●天気の流れの理解が不十分である。	・普段から今の天気について意識させるとともに、定期的に復習する。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「家で学校の宿題をしている」の肯定的割合が98.3%で、市・県より上回っている。そのため今後も継続的に行えるようにしたい。
- 「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的割合が市・県より10ポイント以上上回っている。家での学習は意欲的に行っていると思われる。
- 「家の人と学習について話をしている」の肯定的割合が86.7%で、市・県より上回っている。そのことから保護者の学習に対する関心が高いと思われる。
- 「毎日、朝食を食べている」の肯定的割合が9割以上となっており、基本的な生活習慣が身についていることが伺える。
- 「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定的割合が62.9%で、市・県より下回っていることから、聞きやすい雰囲気を作るとともに、間違いを恐れない姿勢をもつよう普段から喚起していきたい。
- 「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」及び「クラスの友達の間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的割合が、市・県より下回っている。互いに意見を交流することの面白さを味わうことで、話し合い活動への意欲が高まるよう、国語の時間を中心に、指導の仕方を工夫していきたい。
- 「むずかしいことでも、失敗をおそれないでちよう戦している」及び「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定的割合が市・県より下回っている。学校全体で児童を認め励ます教育を推進し、友達のよさを伝え合う活動を実施して、自尊感情の育成に努めていきたい。

宇都宮市立ゆいの杜小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業において、めあて、まとめ、振り返りを確実にするための工夫	・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」などのカードを各教室の黒板に準備し、どの授業でも活用できるようにしている。 ・「板書見せ合いの日」を設定し、互いに見せ合い、参考にする機会を設けている。	・「授業の中で、目標がしめされている」の設問で、肯定的回答した児童が5年生は90%を超え、市や県の平均を上回った。 ・「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の設問で、肯定的回答した児童が5年生は88.5%で市や県の平均を上回った。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	・学年内で宿題の量や家庭学習の仕方をそろえる。自主学習の内容や方法を示し、よい実践のものをクラスに紹介する。 ・互いの自主学習ノートを見せ合う機会を設けることで、今後の学習の参考になるようにする。	・「家で学校の宿題をしている」の設問で、肯定的回答した児童が、どちらの学年でも市や県の平均を上回った。 ・「テストで間違えた問題について勉強している」の設問で肯定的回答した児童が5年生は市や県の平均を上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「クラスの友達の間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という質問で4年生、5年生ともに、市・県の平均を下回った。	・様々な授業で話し合い活動を取り入れる。	・互いに意見を交流することの面白さを味わうことで、話し合い活動への意欲が高まるよう、国語の時間を中心に、指導の仕方を工夫していく。